

# 野球におけるリーダーシップについての研究

## Research of leadership for baseball

1K03A224-3

村松 幸彦

主査 中村好男 先生

副査 作野誠一 先生

### <第I章 背景・目的>

近年、様々なスポーツにおいて、監督やコーチなどの指導者やキャプテンのようなチームリーダーと呼ばれる存在が注目されている。私自身、中学と高校で野球部の主将を務め、「キャプテン」に対して多くの問題点や改善点について考えてきた。その経験から、本研究では「キャプテン」という存在に注目して、研究を進めた。

社会学辞典によると、「リーダーシップとは、集団の成員がみずからすすんで集団の活動に参加して、集団の目標の達成に努めるように誘導し、しかも成員相互の連帯性を維持させるような集団生活における本質的な機能の1つを指す」と定義されている。つまり、いかにして集団の成員が活動に対して、積極的に目標を達成するために努力するように誘導するかということである。ここでは具体例として、3人の著名なリーダーを取り上げ、実際にどのような形でリーダーシップを発揮しているのかを検証し、リーダーシップを研究していく上での問題点を挙げた。

### <第II章 問題点>

初めに第I章で取り上げた2つの成功例に共通する部分を考える。次に、成功例と失敗例を比べ、どのような相違点があるのかを探っていく。成功例に共通することは、リーダーという立場でありながら、他の成員と対等(フラット)であるような言動をしていることである。また、プレー以外の面で何らかの魅力を持ち、周囲を引きつけているところも注目したい部分である。成功例と失敗例の相違点で最も注目したのは、成員との関わり方の部分である。失敗例として挙げた、サッカーの中田氏は自分の考えを信じ、周りに対して押し付けるようにしてチームをまとめようとした点が失敗の原因だと考えられる。成功例の二人は自分の考えをしっかりと持ち、周囲の意見に対してもしっかりと耳を傾け、理解した上でチームをまとめていった。この違いが、結果として成功と失敗という違いになってしまったと考えられる。また、リーダー自身の競技者としてのレベルも、リーダーシップに影響を及ぼすのではないだろうか。

### <第III章 考察>

まず、様々な文献を参考に、過去の研究によってリーダーシップにはどのようなことが求められているのかを考えた。その中で、「特性追求的研究」と「状況追求的研究」

という2種類の大きな軸があるということが分かった。

「特性追求的研究」とは、簡単にいうとリーダーの身体的・心理的特徴に注目した研究のことである。リーダーに重要な側面として、能力、業績、責任感、参加態度、地位の5つが挙げられている。私は「人間性への洞察力」という部分に最も注目した。これは成員の特徴をいかに性格に把握できるかという能力である。相手を知ることによって正しい対応ができ、成員からの信頼を得られるからだ。リーダーシップを発揮しやすい環境をつくる上で、非常に重要な要素である。

「状況追求的研究」とは、集団の内部構造や外部環境などを考慮し、リーダーシップに与える影響を探っていくものである。私自身も経験したが、内部構造の違いで求められるリーダーシップは異なってくる。また、外部から寄せられる期待など影響を与える存在は、内部に限らない。

他にも競技能力のリーダーシップへの影響やリーダーシップの「型」とその効果についても考えていく。こうした多くの考察から、リーダーシップに求められる要素や条件などを考察した。

### <第IV章 結論>

ここまでの考察から、リーダーには多くの要因が影響を及ぼすため、優れたリーダーシップの条件として具体的な何かを述べることは非常に難しい。その中で、これまでの研究と私自身の経験をふまえた上で、優れた「キャプテン」に求められる3つの条件を挙げた。率直に言えば、周囲との良い関係を築くためのスキルを多く持っているということである。良い関係を作ることで信頼が得られると考えられる。特に野球というスポーツは他の競技に比べ、犠牲になるプレーや人と協力して行うプレーが多い。そういったプレーを実現するには互いの信頼関係が最も重要である。そして、そのためには自分自身のことを正確に把握することも大切である。

この研究は野球やスポーツに限らず、一般社会の中でも通用するものである。今後の人生の中でも、ここで学んだことを生かして、様々な場面でリーダーシップを発揮できるようになっていきたいと考える。